

五所川原市文化振興會議創立60周年記念誌



60

■表紙絵

伊藤正規「増田先生の像」

一九九八(平成十)年

油彩／キャンバス 91.0 × 72.7 cm

五所川原市文化振興会議

初代会長 増田桓一

五所川原市文化振興会議 創立60周年記念誌

創立60周年記念誌発刊にあたって

お祝いのことば

五所川原市文化振興会議創立60周年を祝して

五所川原市文化振興会議 会長 佐藤 文治……2

五所川原市長 佐々木孝昌……3

五所川原市教育委員会 教育長 原 真紀……4

60

創立60周年記念誌発刊にあたって

五所川原市文化振興会議

会長 佐藤 文治



五所川原市文化振興会議が創立六十年を迎え、皆様方のご協力を賜り記念誌を発刊できますことに心より感謝申し上げます。

本会議は五所川原市に活動拠点をおく文化団体等が組織し、初代会長に増田桓一氏が選任され、五所川原市の芸術文化の振興のために活動してまいりました。現在三十四団体が加入されておりますが、各団体としての活躍はもとより、昭和三十六年より毎年文化の日に五所川原市中央公民館を主会場として開催されております五所川原市民総合文化祭には、互いの団体が協力し、五所川原市民に対しまして広く芸術文化の発信をしてまいりました。

また平成七年からは青森県文化振興会議と連携をとり青森県文化祭にも微力ながら協力してきたところであります。

残念ながら創立からの資料が乏しく文化振興会議としての記録を正確には把握しておりませんが、この六十周年を期に今後はその足跡を残してまいりたいと考えております。

昨年より新型コロナウイルスが全世界に蔓延し、感染防止のため国内外において様々な制約がなされ、文化・スポーツ等においても制限を余儀なくされております。当振興会議でも加盟団体の毎月の活動そして市民総合文化祭にも支障をきたしておりますが、新型コロナウイルスが一日でも早く終息し、全人類が安心して活動できる世界になることを心より祈念するものであります。

五所川原市文化振興会議においては、今後とも芸術文化の普及および文化思想の発展向上のため、互いに連携をとりながら活動してまいりたいと考えております。

終わりに、発刊にあたり玉稿をいただきました五所川原市長佐々木孝昌様、教育長原真紀様、会員各位、そしてご協力を賜りました中央公民館職員の皆様に厚く御礼申し上げ発刊のあいさつといたします。

お祝いのことば

五所川原市長 佐々木 孝 昌



五所川原市文化振興会議が創立60周年という記念すべき年を迎えられ、ここに記念誌が刊行されますことは誠に意義深く、心からお喜び申し上げます。

昭和35年の設立以来、芸術・文化をこよなく愛する人々の大きな期待の下、市民総合文化祭の開催や、県、市町村等との共催による青森県民文化祭の開催など、幅広い活動を通じて市民の芸術・文化活動の充実に多大なる御貢献をいただいたことに対し、心から感謝を申し上げます。

また、佐藤会長をはじめ、今日の御隆盛を築かれた歴代会長、そして会員各位のこれまでの御尽力に対しまして、深く敬意を表する次第であります。

近年、グローバル化の進展や、急速な情報通信技術の発達など、めまぐるしく変化する社会環境において、芸術・文化は人々に深い感動を与え、私たちの

生活に潤いと安らぎを与えてくれる大切なものです。

市といたしましては、五所川原市総合計画後期基本計画に掲げる「個性を伸ばし育む人財と文化づくり」を推進するため、市民が芸術文化に触れる機会を充実させるとともに、伝統文化の継承に向けた取組支援などを通して、地域文化活動の振興に積極的に取り組んでまいる所存でありますので、五所川原市文化振興会議の皆様方には、なお一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。結びに、このたびの栄えある60周年を契機として、会員の皆様の一層のご活躍と、五所川原市文化振興会議のますますのご発展を心より祈念申し上げます。お祝いの言葉といたします。

五所川原市文化振興会議 創立60周年を祝して

五所川原市教育委員会

教育長 原 真 紀



五所川原市文化振興会議が創立60周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

昭和35年に五所川原市に拠点をおく文化団体の参加により会議が設立されて以来、歴代役員の方々や関係者の皆様のご尽力によりまして市民の文化活動推進の中核として会議が発展され、これまで当市の芸術文化の振興・推進に多大なるご支援、ご協力をいただいておりますことに対しまして、深く敬意を表するとともに厚く感謝申し上げます。

長寿社会を迎え、人生100年時代を見据えた生涯学習の推進が求められています。これまでの人生設計は「20年学び、40年働き、20年休む」という「教育・仕事・老後」の3段階が一般的でしたが、100歳まで生きることが一般化する社会では、年齢による区切りがなくなり、学び直しや転職、長期休暇の取得など人生の選択肢が多様化すると予想されています。

心身ともに健康で文化的な生活を営むためには、生涯にわたって学び続ける

事が必要であります。市民の皆さんには、今後も今まで以上に自己の年齢や適性に応じて、文化に親しむことや関心を持っていただくことが大切であると考えております。

教育委員会といたしましても、市民が芸術文化に触れる機会を充実させるとともに、地域文化活動の振興に積極的に取り組んでまいりますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

本会議におかれましては、現在は34団体が加盟され活発に活動を展開しております。特に市民総合文化祭では、互いの団体が協力し合い「発表会」や「作品展」などを開催され、数多くの市民が文化のすばらしさを堪能させていただいております。創立60周年という節目を迎えられ、これを契機に市民の文化教養の向上と振興、発展に一層寄与されますことをご期待申し上げます。

結びに、五所川原市文化振興会議並びに加盟団体のますますの充実、発展と会員皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。

加盟団体の組織と活動状況

60



津軽植物の会	7
五所川原俳句会	8
五所川原短歌会	9
五所川原宝生会	10
五所川原合唱団	11
川柳岩木吟社	12
五所川原書道会	13
菊花晚香会	14
画友社	15
光彩会	16
五所川原四つ羽会	17
華道家元池坊	18
遠州流茶華道津軽西海支部	19
一般財団法人小原流五所川原支部	20
いけばな龍生派五所川原支部	21
茶道裏千家五所川原和敬会	22
遠州流茶華道五所川原支部	23
箏曲松葉会	24

津軽アスナロ短歌会	25
五所川原写真クラブ	26
五所川原盆栽会・津軽野盆栽会	27
新日本舞踊藤都流	28
五所川原甚句保存会	29
五所川原女声コーラス	30
公益財団法人煎茶道方円流	31
全日本俳画穂有会(青森県五所川原教室)	32
むがしっこ語る会「ゆきん子」	33
遠州流茶道五所川原東支部	34
ハーモニー夢	35
五所川原健康レクダンス飛翔	36
歌謡楽唱会	37
五所川原悠遊クラブ	38
ねん土を楽しむ会	39
五所川原市文化振興会議加盟団体一覧	41
五所川原市文化振興会議規約	42
	43

津軽植物の会

〒037-0069
青森県五所川原市若葉1-2-9

地域植物の諸学問研究
会長・木村 啓

津軽植物の会は昭和三十九年（一九六四年）一月一日に、七名の小・中・高校の青年教師を中心に組織された。（会員は現在五十名）

目的は『地域植物の諸学問研究』で、毎月一回植物研究誌（月刊津軽植物）の発行と植物研究集会（野外及び屋内）の実施、年一回会員植物研究発表会と会員外へ招待植物観察会などを開催すると決めた。

以来、五十八年間に渡って、初心を忘れずに、着実に活動を継続している。

★『月刊津軽植物』

創会以来五十八年間一度も休むことなく、現在五十八巻九号通巻六百九十三号を発行済。民間植物研究会としては日本一の継続発行である。（B五判、一卷分百ページ）

内容は、会員による「地域植物の研究と調査の成果」で、新発見種の記録、地域植物分類研究、植物民俗や植物方言の収集紹介、地域植物のフロラ（植物相）など多岐に渡り、報告文は五千題を越える。無作為に三題を掲げる。

- ①「岩木山の植物垂直分布について（葛谷孝） 一卷二号」
- ②「白神岳登山記録より（野呂敏弘）」

一卷五号」

- ③「植物雑記四十三〜混乱せる学名綴り二、三（II）（原田幸雄）二十六巻二号」

★『植物調査観察会』

毎月一回以上の調査観察会で五十八年間に渡って、一度も休むことなく実施した。全部で一千回は越えている。

五十二年目（二〇一五年）の調査観察活動から三つを述べる。

- ①「深浦町松神調査観察会」（三月二十九日。確認種は百三十六種。二十六名参加。）
- ②「夏泊雷電林調査観察会」（四月二十六日。確認種は百四十八種。二十名参加。）
- ③「赤人植物調査観察会」（五月二十三日〜二十四日。確認種は二百十八種。十二名参加。）

★『植物研究発表会』

五十八年間に渡り、毎年一回実施し、全部で二百題の発表があった。その中から三題を述べる。

- ①「希少植物ヤチランの発見と観察」（葛西直子。二〇〇八年十一月一日）
- ②「市浦・木無岳に出現したシダ植

物二十五種について」（松本明男。二〇〇九年十一月一日）

- ③「卒論で作成した青森県植物目録」（井上守。二〇一四年十一月一日）

★『七夕スライド会』

五十八年間に渡り、毎年七夕の日を中心に、主として五所川原市民を招待して実施した。全部で三百題にも及ぶが、その中から三題を挙げる。

- ①「白神山地西部地区に咲く花」（工藤安昭。二〇〇四年七月六日）
- ②「市浦・木無岳と周辺の植物」（木村洋志。二〇〇七年七月六日）
- ③「津軽の蝶」（鳴海富美子。二〇一四年七月三日）

★『青森県新発見植物』

会創立以来、五十八年間に渡り植物分布を記録して来た。その結果、これまで青森県に分布記録の無かった種類を次々と発見し、三百種を越えてしまった。その中から三種を紹介する。

- ①「ホロムイイチゴ」（木村啓が五所川原市長富浮島で発見。青森県初記録種。）
- ②「タカネグンパイ」（佐藤石夫が深浦町吾妻川で発見。本州初記

録種。）

- ③「トガリバヒョウタンゴケ」（澤田満が鱒ヶ沢町川尻海岸で発見。日本初記録種。）

津軽植物の会は、見返りなどを求めず、五十八年間に渡り、地域植物の調査研究を継続し、記録し報告をして来た。

その結果、各方面から評価されるようになり、『東奥賞』や『日本善行賞』や『文化褒賞』を戴いた。感謝の念でいっぱいである。

間もなく【実践継続六十年】になる。今後は「五所川原市民」及び「青森県民」、そして「少年少女」と「八十路同輩」に、『地域植物と学問的に関わること』の「楽しさ」と「喜び」と「成就感」を分かち合いたい。この学問を『植物教育学』と呼び、高く評価され、注目されている。

文責・津軽植物の会会長 木村 啓

五所川原俳句会

〒037-0006
青森県五所川原市松島町4丁目22

設立・昭和26年
会員・15人
会長・松宮 梗子

本会は、昭和二十六年に成田千空が結社を超えた自由な句会を目的として立ち上げた。

千空は、俳句結社「万緑」（中村草田男創立）の選者を長く努め全国各紙の選者ともなった。

現在会員は、五所川原市内のみならず、青森市弘前市黒石市等より参加し、月一回の定例会及び年に数回の吟行句会を行っている。

また、年に一度の県下俳句大会を開催し、県内一円より多数の参加を頂き、昨年度令和二年は、第六十回記念大会を開催した。あわせて五所川原市文化顕彰の文化功労賞（団体）を受賞。

青森県俳壇の中心的存在であった成田千空の本質を受け継ぎ、日本の伝統文化である俳句が地域文化の向上へ寄与することが認められたのである。

今後とも、会員ともに研鑽を積み親睦を深め、俳句を深く広げてゆく所存である。



五所川原短歌会

〒037-10074
青森県五所川原市若木町24-5

当短歌会の歴史は古く、明治三十九年、和田山蘭、加藤東籬が草創した「蘭菊会」を原点としている。両歌人は若山牧水との親交もあり、大正五年三月、牧水が五所川原を訪れ深い信頼と友情を示している。市内元町八幡宮境内にある牧水歌碑には、この時に作った歌が刻まれており、現在も残っている。牧水はその後も一度来訪している。

以来、尊い伝統と文化の灯を絶やすことなく継承され、昭和二十七年に「五所川原短歌会」と改称した。短歌を愛好し、会員相互の親睦と協力により作歌を続けることで、人生の喜びを見出し、会の発展と市民文化活動の活性化に努める趣旨のもと組織され、現在に至る。

昭和五十六年秋には、当時の五所川原市長寺田秋夫氏のご尽力により、市内神山フラワーセンター遊歩道に「短歌のみち」小碑群を建立し、物故歌人を含む当時の会友二十四名の歌碑が並び刻まれている。尚、平成元年七月には八基が追加され、計三十二基となった。

これまでの活動として、毎年行われる東奥日報社主催の県下短歌大会や県内各地で開催される結社の大会において多くの実績を残し

てきた。平成二十六年九月に開催された第五十三回五所川原県下短歌大会において、山形礼子氏が一位の県知事賞を受賞したことは記憶に新しい。

長い間当市で行われてきた本会の年間行事の市民総合文化祭五所川原県下短歌大会であるが、平成三十年五月に、当時会長であった小笠原俊亮氏のご逝去されたため、平成二十九年九月の第五十六回大会以来開催できていない。長きにわたり当会の運営、毎月の詠草指導、大会の開催等に携わっていたが、会員一同感謝は尽きず残念でならない。各地の結社で開かれる大会の選者としての流暢な歌評も懐かしく思い出される。

発足当時は二十余名ほどであった会友も高齢化に伴い、現在は十一名にまで減ってしまった。会存続のためには今後の後継者育成が喫緊の課題である。

現在会の活動としては、年一回の吟行歌会、毎月一度の歌会を開き、提出歌を会員相互で歌評し、その詠草集を東奥日報社、陸奥新報社に投稿し、掲載させていただいている。

短歌を愛好し、会員相互で歌の技術を高め合い、県内各地の大会に参加することで、市民文化活動の発展に努めている。



五所川原宝生会

〒038-3515
青森県北津軽郡鶴田町山道前田21-5

当会は、大正七年七月に、当時の北津軽郡郡長見坊田鶴雄氏の呼びかけに賛同した町の医師や岩木川改修事務所所長、郡視学等により創設された宝生流謡曲会「松風会」にその源を発する。

翌年八月には、新会員を増やし会名を「五所川原宝生会」に改め、活動を本格化する。

以来、宝生流職分の齋藤篤師、榎本貴俊師、寺井良雄師、そして平成二十三年からは本県出身の野月聡師のご指導を戴き、今日に至っている。

平成三十年五月には、会創立百周年を迎え、記念式典と記念大会「宝生流謡曲仕舞五所川原大会」を開催するとともに、記念誌・創立百年史「謡曲百年の絆」を発行することができた。

会発足から大正、昭和、平成を経て令和の現在までの百年を超す歴史を刻んできたことと、その節目のお祝いが出来たことが会員の大きな誇りとなった。

令和となりすでに三年、コロナウイルス禍の中で稽古もままならない厳しい状況にありますが、これを取り越え更なる発展を目指し精進に努めていく所存です。

会の主な活動及び恒例行事は以下のとおりです。

- 一 定例稽古の開催
毎週火曜日午後七時～九時
市中央公民館三階
- 二 謡初会・謡納会の開催
発表会と懇親会
- 三 宝生流謡曲仕舞五所川原大会の開催
津軽地域各宝生会参加
- 四 各種大会への参加
① 弘前地区
宝生流謡曲仕舞の会
津軽聡雲会「ゆかた会」
② 青森県宝生会大会
③ 青森県民文化祭
④ 「謡曲・仕舞・狂言の会」
- 五 市民総合文化祭への参加
- 六 公民館事業への協力
みんなの教室「謡曲教室」の開設

会長・澁谷 信一
会の目的・宝生流流儀の発表、会員相互の技能の向上と親睦の促進。



百周年記念大会 素謡「岩船」 於：ふるさと交流圏民センター

五所川原合唱団

〒037-0023
青森県五所川原市広田152-13

以下に記すことは、平成五年に発行された「五所川原合唱団創立四十周年記念誌」と、筆者の記憶（幼少時は団員の家族として、成人後は一団員として）をもとにした合唱団の大まかな歴史です。

五所川原合唱団は、昭和二十八年、五所川原高等女学校音楽部OGを中心に、五所川原コーラス会としてスタートした県内初の混声合唱団です。しかし、当初の男声陣は、青年団の神正良さん（マネージャー）として合唱団の大黒柱となるも昭和五〇年に急逝）が声をかけて集めた、軍歌と式歌しか歌ったことがない若者がほとんどでした。年かさのゆえ団長兼指揮者となってしまう二四歳の笹昭夫（昭和四〇〜平成一五）も、そんな若者の一人でした。青森師範学校を卒業後、新制五所川原中学校に数学の教師として赴任しますが、出来たばかりの合唱部の指導に熱を上げ、授業も数学はそっちのけで合唱の話ばかり。この「オツカネモノ知ラネワゲモノ」が、神さんに目をつけられたのでした。

こうして繋がった「仕事」も「世代」も「性別」さえも超えた仲間が、ハモる事を楽しみ、美しい響きを求める心を受け継いで六八年が経ちました。

記念誌を改めて読み込んでみると、危機を乗り越え、盛衰を繰り返しつつ今に至ることが分かりますが、ここでは何度か訪れた盛期に光を当ててみます。

◆第一期【昭和二十八年〜三〇年代】

結成直後の昭和二十八年七月、青年団の後押しのおかげで「全国青年大会青森予選（合唱の部）」に初出場する機会を得、まさかの県代表に選出されます。二ヶ月後の九月には東京の社会事業会館で行われた全国大会の舞台に立ち、思いもよらない優秀賞を受賞。「この賞は正に神様から戴いた励ましであった」と、笹昭夫は記念誌に記しています。

記念すべき「第一回定期演奏会」が開かれたのは、三一年度の同大会で最優秀賞を受賞した一月後、一月一七日のことでした。

◆第二期【昭和四七年〜六一年】

五所川原高校に赴任された一戸和久先生を指揮者に迎え、より高レベルな「全日本合唱コンクール」への挑戦を通して、合唱団が東北大会の常連団体に成長した時期でした。

昭和六一年には、ここまでの歩みが認められ、「青森県文化報奨」を受賞しています。

また、五所川原高校で一戸先生の薫陶を受けたメンバーは、現指揮者の坂崎隆浩氏をはじめ、現在でも多くが歌い続けています。

◆第三期【昭和六二年〜平成一〇年】

坂崎氏が一戸先生の指揮・指導を引継いだのは、昭和六二年のことでした。団員も二〇代から三〇代前半の若手が増え、まるで指揮者のエネルギーが、歌い手に

団長・三橋 一志
団員・25名
設立・昭和28年
指揮者・坂崎 隆浩
ピアニスト・中谷美智子
事務局・佐藤 浩美

乗り移ったかのような状態に変容していきます。

平成四年、同七年には、日本の合唱界に多大な影響を与え、「ウィーン少年合唱団」の指揮者でもあったF・グロスマンの名を冠したコンクール「グロスマン賞コンテスト」に出場。全国レベルの大会では青年大会以来となる金賞を受賞します。特に七年度は最高位となる総合優勝を果たし、年度末にはウィーンに招かれ、「楽友協会」のホールで演奏するという夢のようなひと時を過ごしました。

六年度には、カーネギーホールの修繕チャリティー演奏会に日本を代表する芸能団体として参加。

さらに八年度は、「全日本合唱コンクール」で全国大会（福岡）まで進み、銀賞を受賞。このコンクールでの全国大会出場は、一戸先生以来の悲願でもありました。

右のような活動が認められ、平成三一年度には、三橋一志団長と合唱団が、市より「文化功労賞」を受けるという榮譽に浴します。

一方、ここまで続けてこられたのは、地域からの応援あつてのことでした。特に、昭和五一年に発足した「五所川原合唱団後援会」の皆様には、心強い支えを頂いてきました。初代会長岩館忠雄氏、

第二代会長江渡諄治氏は終生会長を務められ、活動の大きな柱である「定期演奏会」（令和元年度に五三回目を開催）やコンクールの祝賀会には、必ず足を運んで共に喜び励まして下さいました。

このような歴史を経て、令和五年には創立七〇周年を迎えます。現在のコロナ禍を次への準備期間と考え、次世代にも「ハモる楽しみ」を伝えつつ、今後地域に根差した文化団体の一翼を担っている合唱団でありたいと思っています。



川柳岩木吟社

〒037-0016
青森県五所川原市宇一ツ谷522-5
沢田百合子

①川柳とは何か

川柳とは五七五の十七音で作る世界一短い詩である。短歌、俳句、川柳と時代に応じて突然変異を繰り返した日本独自の短詩文芸。俳句と形はそっくりだが目的が違う。

俳句は自然を詠むが、川柳は人間を詠む。季語はいらぬ。古典的な切れ字もいらぬ。現在、私達が使っている言葉で作ればいい。

川柳が目指すのは人間の喜怒哀楽である。笑いやユーモアは川柳の基本である。だが人間は時には怒り、泣き、悲しむ。こういう負の感情も川柳は豊かに歌いあげる。人間というどうしようもないものを愛して一行の詩にする。

②岩木吟社の活動

句会は月一回。第三金曜日、午後六時から。場所は中央公民館。宿題、席題(当日作る)の作品を選者が選考し、成績発表。その後歓談の時間となる。川柳を披露するだけでなく、コミュニケーションをとる場でもある。岩木吟社は「川柳は自由に楽しく。伝統だろうと革新だろう」といい作品はいい。」がモットー。各自の個性を尊重し老若男女どなたでも参加できる。句会の見学、飛び入り参加歓迎。

③岩木吟社の歴史

- 昭和8年(1933) 五所川原川柳社創立
- 昭和12年(1937) 川柳岩木吟社創立
- 柳誌「岩木」創刊

昭和39年(1964)

岩木吟社第一回県下川柳大会

柳誌「岩木」を「いわき」に変更

昭和42年(1967)

「句集いわき」発行

昭和56年(1981)

「句集いわき第2集」発行

平成9年(1997)

「合同句集いわき」発行

令和2年(2020)

岩木吟社第五七回県下川柳大会

令和3年(2021)

柳誌「いわき」七〇〇号発行

現在、五所川原市文化振興会議、青森県川柳連盟、全日本川柳協会に所属

代表氏名 (本名)

1. 小山 吉朗 (吉之助)

昭和38年〜昭和62年

花好きの妻が苦にせぬこぬか雨

2. 菊池ふみを (富美雄)

昭和62年〜平成9年

母の背に仏と憩う風がある

3. 加藤 彩人 (政則)

平成9年〜平成24年

どん百姓の業ひとつぶの米拾う

4. 佐藤ぶんじ (文治)

平成24年〜

初代から三代までの代表の川柳碑は市内の菊ヶ丘運動公園にある。上記の川柳はその句碑のものである。

④現会員の作品

青い空と遊びおとなになりました

佐藤ぶんじ

絵手紙のりんご津軽が懐かしい

澤田長一朗

わがままをふんわり包む母の愛

櫛引 淡平

上澄みに浮く父の言葉母のことば

佐藤寿見子

鬼灯の真つ赤な夢は畳めない

小野左千郎

大笑いして女は海になりました

沢田百合子

完熟の夕陽丸呑み日本海

長谷川 徹

だんだんと加速していく砂時計

伊香 広翁

脇役のパセリにもある自己主張

大田 拓弥

かけちがいボタンの穴からみる未来

今 としえ

留守宅でじやれるルンバと三毛二匹

野呂なおたけ

スマホ越し孫はいつかもう二歳

松橋 洋

薄めるな頑固親父の湯の温度

辻 みちよ

お見通しあなたの進む橋の先

角田たい子

川柳を創作し、交流や発表を通じて文学的・文化的活動をしている。



五所川原書道会

〒037-0051
青森県五所川原市弥生町5

五所川原書道会は、毎年十一月に五所川原市中央公民館にて開催される市民総合文化祭に、昭和三十六年開催の第一回目から休むことなく継続して参加しております。現在の活動は、青森県書道連盟主催の「東奥書道展」や県書道連盟西北五支部主催の「庚辰会書作展」への参加です。

現代はパソコンやスマートフォンなどが広く普及しており、字を書く機会が減ってきているため、毛筆で字を書くことに抵抗を感じてしまうかもしれません。しかし、書道の世界は非常に奥が深く、日々の生活で疲弊した心の癒しになりますので、是非皆さんも書道を始めてみませんか。各支部にて絶賛生徒募集中です。

これからも五所川原市の書道文化の推進と市民の心の癒しのため頑張っていきますのでよろしくお願い致します。



「第21回 庚辰会書作展 - 小品展 -」



「平成30年度 市民総合文化祭」

県内の作品展に出展し、五所川原市の書道文化の推進に努める。

菊花晚香会

〒037-0096
青森県五所川原市毘沙門字西中久保1-20

晩香会の発足は、明治か大正時代で、その当時自営業の旦那衆が集い、菊作りと樹木盆栽と一緒にした会であった。

昭和二十三年頃、町長であった晩香会会長の神伊三郎氏が近所の人達に菊づくりを教えていた。

昭和六十三年頃には、五所川原文化祭に於いて盆養百十五鉢、切り花、百十本の審査にあたる。

当時の晩香会会員が十九名だったということから、菊づくりが盛んだったことがわかる。

平成六年「第一回ごしよがわら菊まつり」が開催される。

後援は五所川原市、教育委員会、商工会議所、観光協会等、経費は市が負担して産業まつりと併催して実施された。

菊花出品団体は、晩香会、市農協花き部会、長橋小父母の会、羽の木沢小父母の会、五農高校の五団体で、平成十九年まで報償費が支払われていた。その後市からの

補助が無くなり、他の出品団体は去り、晩香会のみで菊花展示会として実施している。

小菊盆栽が晩香会に出品されたのは、平成十年頃からである。

現在は、晩香会会員の高齢化が進み、盆養などの重量物の運搬等も大変になり、手軽な小菊盆栽が主になってきています。

菊は一年物であるため、失敗しても毎年作れますので、ぜひ一度試してみてください。

これからも菊の普及に努めて参りたいと思っています。

晩香会への入会をお待ちしております。

菊花愛好者の会
市文化祭などへ参加し、菊の普及に努めている。



画友社

〒037-0073
青森県五所川原市柳町9-9

なかつたことでしょう。

木村氏は武蔵野美術大学を卒業した後小学校教諭となり、定年退職後に私と知り合い二十六年間絵を教えてくれた素晴らしい先生でした。

画友社会員の皆様には、私が木村先生に教わったたくさんのお事を教えることができばと思います。また新型コロナウイルスが終息した際には、作品展示会やスケッチ会など積極的に活動していきたいと思っています。

※画友社会員（令和三年時点）

- ・荒閑 光治
- ・浅利 佑
- ・市前 忠志
- ・小山内明義
- ・大川 博子
- ・土岐 聖子
- ・藤田恵理子
- ・岩渕 登子
- ・畑中 唯
- ・稲場 春美
- ・斉藤 隆

画友社代表・講師

葛西浩三

画友社は元々、五所川原チャール会という名前で活動していました。遡ること約三十年前のことです。個人的な話になりますが、私葛西は五所川原チャール会に入会する前は、木造チャール会に所属していました。当時の五所川原チャール会会長崎野清蔵氏より、「五所川原チャール会に作品をいくつか出品してくれないか」と電話がありました。迷わず作品を出品したものです。その後三年程作品を出品し続けた頃、崎野氏は弘前に帰ることになり、次期会長として坂本菊江氏にバトンタッチされました。坂本氏が会長になった二年後、五所川原チャール会は紅唇会に名称を変更し私葛西が会長になりました。その後二年程紅唇会の名で活動していた頃、木造チャール会で知り合っていた木村武彦氏に講師を依頼したところ、木村氏は快く引き受けてくれました。ある日、木村氏に「紅唇会ではなく何か他にいい名前がないものか」と相談したところ「画友社がいいじゃないか」と言われたことがきっかけで、それから二十八年間、画友社の名前で活動しています。木村氏に出会っていなければ画友社に名前を変更することは

公民館での教室が主な活動、年2回ほど野外でスケッチを行う。
年1回、展示会を行う。



光彩会

〒037-0621
青森県五所川原市豊成字田子ノ浦64-7

設立 1983年
会員 14名
代表 増田 初子

当会は1983年発足、例会と称して月2回の絵画教室を中央公民館で開いている。

伊藤先生に巡り合ったことから、会員は皆それぞれの絵の在り方を念頭に置いて活動し上達していった。現在会員は十四名で構成されており、会員それぞれが日展、光風会展、河北展、県展そして実生会展など数多くの展覧会に出品し、入賞・入選してきた。

「五所川原市民総合文化祭」には毎年参加し、ここ何年かはショッピングセンターエルムにおいても展覧会を開催し好評を博している。

また、毎年十月頃は絵画を身近に感じてもらうために市内の喫茶店でも展覧会を行い、会の発展や仲間同士の交流を図っている。昨年



「伊藤正規画伯」

は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため活動を休止していたが、伊藤先生の回顧展を契機に、刺激を受けた会員が三カ月ぶりに例会を再開し画力の向上に励んでいる。



先生のアトリエには「画面の上部と下部との変化と緊張感」「構成を考えること」「色面と色彩を考えること」「現代的であること」などの指導要領が掲げられている。会員は広く素材を見つけ、心惹かれる作品づくりへ力を注いでいる。

- ・原 幸子 (市内松島町)
 - ・飛鳥 栄子 (〃)
 - ・一戸 トシ (〃)
 - ・田辺 裕子 (市内下岩崎)
 - ・神 貴美子 (市内新町)
 - ・三浦美由紀 (つがる市)
 - ・尾野 ツエ (市内湊)
-
- ・野呂 義隆 (市内みどり町)
 - ・三上 慶子 (市内原子)
 - ・山内 信子 (市内広田)
 - ・三上 正子 (市内錦町)
 - ・増田 初子 (市内豊成)
 - ・長内 陽子 (板柳町)
 - ・外崎 永子 (市内雛田)



光彩会総会 (令和3年12月)

五所川原四つ羽会

〒037-0045
青森県五所川原市字新町57番地

年1度、文化の日に絵画・ちぎり絵を公民館に展示する事。

早いもので、五所川原市の文化祭に参加する様になってから48年目になります。初めは、レモンの会・チャールル会等と色々名目を変え、現在に至っています。初代の会長は、成田紅葉さん、次は倉光春樹さん、次は佐々木康美さん、次は崎野清蔵さんと続き、私、神で五代目、時代を受け継いで参りました。しかし一昨年よりコロナ禍が猛威を奮い、市の文化祭も中止、又毎年中央展に出品していたが、その中央展も中止となり、今年令和三年もなお感染者が後を絶ちません。日本は今八月、オリンピックで毎日ニュースを賑わしております。私達の絵の集いも、再来年には50周年の節目に当たります由、まだまだこれからです。会員は中央展や県展に出品し、入選又は賞をとりました。おかげ様で市の教育委員会より「文化功労賞・文化奨励賞」をいただきました。賞を受けた方は神貴美子、泉谷美年子さん、石澤和子さん、金山洋子さんです。会員の方すべての方の協力があつてこそ、市の文化祭なのです。コロナ禍が収まりしだい、又中央展に出品し活躍したいと思えます。平成の終わり頃には、県展より賛助出品の依頼が

あり出品、又首相官邸への作品貸し出しなどもありました。世間からやっと認められ、会員みな喜びにあふれていましたが、コロナ禍になり今は自粛中。一四世紀の中頃、ペストがヨーロッパ中で大流行し、全人口の1/3ともいわれる人々が死んでいった。その時代に今のコロナはよく似ている。しか

し、いつまでもその様な苦しみは続かない。その反動で再び自分たちの生活を信じ、明日を信じた人々は、一五世紀に進みルネサンス（神中心の絵画から、人間性の絵画へ）に変貌し、今の現代絵画となったとの事。今後二一世紀のこのコロナ禍がどの様に、世界の絵画を変えるのが楽しみです。この時代に生

きて、これからも絵の世界で歩み続けたいと、私達のグループは思っています。

渋沢栄一師が参上した一九世紀五月のパリ万博では、和紙工芸（日本画）がグランプリを受賞した。代表で徳川昭武司がいたゞいて参ったとのこと。その頃の日本は徳川三百年が終わり、年号も明治となりました。あれから一五〇年がたち、ヨーロッパ各地で買いとられた日本の文化が、ゴッホや他の画家にジャポニズムと称され、多くの画家たちを目覚めさせた事となりましたそう、誠に嬉しい限りです。

きつと私達絵画グループも、又中央展へと出品し活躍する時が来ると思いますので、今後共、五所川原市のご協力を心よりお願い致します。



華道家元 池坊

〒037-0006
青森県五所川原市松島町4-81

数多くある、いけばなの中で最も長い歴史と伝統を持つ流派が、池坊です。

その活躍は五五〇年以上前の文献にも刻まれております。

五所川原市に池坊の支部はありませんが、四季の移ろいの中で草木の出合を大切に見つめ、飾る喜び又癒として和を大事に、仲間同志で勉強しております。

池坊のお花に出合うのが楽しみです、気持ち晴れやかになるとの声に励みに一年に一度の総合文化祭を目標として、活動しております。趣味が多様な現代の中、いけばなを通し、美しい心・生きる喜びを伝えながら、今後とも前進して行きたいです。



代表・田村 照代

活動内容・和と美を大切に気軽に池坊のお花を楽しむ事です。
活動場所・五所川原市中央公民館
活動日時・火曜日午後2時〜午後8時



遠州流茶華道津軽西海支部

〒036-8182

青森県弘前市土手町48-1
ポレスターセンターラルシティ弘前1501

遠州流茶道は「綺麗さび」と称されます。「侘び・さび」の精神に美しさ、明るさ、豊かさを加えた誰からも美しいといわれる客観性之美、調和の美を真髄とする流派です。流祖・遠州侯が求めた茶の湯の心とは、本来侘び・さびというものとは形ではなく、心が侘びであり、さびである。さらにきれいなものは、心の内からのきれいなさびで、品格があつて姿が正しく整つていて、心がきれいでなくてはならないと伝えられています。

津軽西海支部は昭和五八年に初代支部長菊池宗雲のもとに発足し、二代目小田桐宗稔、三代目藤田宗祥と続き、現在の支部員は三十七名です。お家元より支部の認証状を授与された折、菊池宗雲支部長が述べた「遠州流を汚すことなく支部員一同、心を一つにして北の地で頑張る」という決意を胸に日々のお稽古に励んでおります。五所川原市民総合文化祭（以下、市民文化祭）には菊池宗雲の時代から参加し、現在は当支部と五所川原支部、五所川原東支部の三支部が交代で毎年遠州流のお茶席を担当して、日頃研鑽しているお点前を披露し、お茶とお菓子をお出ししています。

市民文化祭では四十名の席を八席持ち、合わせて三百名以上のお客様をお迎えしてお茶席となります。これほど大きなお茶会を催すことはなかなかございませんので、担当の年は支部員全員が開催に向けて何ヶ月も前から準備を始めます。お茶席のテーマを決め、お道具組みや特別なお菓子を用意するなど頭をひねり、苦心しながらも準備の時間そのものを楽しんでおります。

市民文化祭本番では皆様に喜んでいただけるよう、精いっぱいのおもてなしを心掛けております。お稽古の成果を発揮できることもあれば、緊張のあまり普段はしないような失敗をしてしまうこともあり、人前でお点前をすることの難しさを感じます。お客様の中には元々茶道が好きという方もいらっしゃいます。お茶とは無縁の方、初めてお抹茶を飲む子どもたち、他流派の方など、普段はお会いすることのない様々な方との交流も楽しみの一つとなっております。私たち自身も他流派のお茶席やさまざまな分野の芸術に触れる貴重な機会であり、またお茶席を持つことで地域の文化、芸術の発展の一翼を担えることを喜ばしく思っております。

3代支部長・藤田 宗祥
連絡先・090-8781-7138
一緒に学びたい方を募集しております。気軽にご連絡ください。

現代人は仕事や子育てに忙しく、なかなか自分自身の時間を持つことが難しくなっています。丁寧な動作でお茶をたてて心を静めることは、忙しい現代社会においてつかの間の休息となり、気持ちを切り替えるための重要な場となるのではないのでしょうか。また、本人が意識しなければ日常生活で文化芸術に触れることはないかもしれません。しかしお茶を通して日本の文化芸術に触れ、先人を敬い歴史を学び、知識や考えを深めるなかで自分自身と向き合うことができるのではないかと思います。

昨年は新型コロナウイルスの流行によって市民文化祭自体が中止となつてしまい誠に残念です。地域の文化の継承発展における市民文化祭の役割を痛感しつつ、コロナ禍の終息と早期の市民文化祭の開催を願っております。



一般財団法人
小原流五所川原支部

〒037-0064
青森県五所川原市字下平井町41-5

昭和三十四年十月、小原流五所川原支部が創立されました。初代支部長津島光昌によって活動を始め、自然を大事に思い、心を豊かにするその精神は、現在、五代支部長長谷川敬子へと引き継がれております。

小原流のいけばなは誕生して百二十五年。変わりゆく生活様式の中、歴代家元によって、その時代の空間に合った植物の在り方を提唱しつづけています。平成三十年、五所川原支部も創立六十周年を迎え、記念式典を行いました。改めて多くの会員によって小原流の技術と精神が受け継がれていくよう努力しております。

年十回開かれる「五所川原支部研究会」では、本部講師の指導を受け、会員の技術向上に努めています。その発表の場として、毎年「みんなの花展」を開催し、また、県民文化祭市民文化祭にも参加しており、多くの方々に観賞して頂いています。

様々な情報や物があふれている現代において、小原流の将来を見据え、子ども教室を開催し、日本の伝統文化のすばらしさ、大切さを発信していきたいと考えます。



支部長・長谷川敬子
いけばなの技術の向上と伝承、自然を愛でる精神の育成。

いけばな龍生派 五所川原支部

〒037-0023
青森県五所川原市大字広田字榊森54-56

設立・昭和50年
会員・50名
支部長・木村 紫香

龍生派は一八八六年明治十九年流祖吉村華芸先生によって創流されました。その後、二代家元吉村華丘先生、三代家元吉村華泉先生、そして現在の四代家元吉村華洲先生と、実に二一〇年余にわたり脈々と受け継がれ、代々において新風を送り込んでこられました。

特に三代目家元華泉先生は、現代のいけばなの「自由花」の発展に力を注がれ、なかでも『植物の貌』とよばれる自由花の新しい方法論を広くいけばな界に提唱されたことが特筆されております。

現代の私達の地球環境的な視野に立ち、植物の生命とそれをいける私達人間という二つの生命の出会いとして、いけばなを捉える画期的なものであります。このような深く長い歴史をもつ龍生派において、昭和五十年、初代支部長松江香山先生の功勞によって龍生派五所川原支部が設立されました。

当時のことは、二代目支部長木村愛香先生や三代目支部長堀内香静先生より、よくよく伺っております。龍生派本部でも名の通った存在だったようです。お陰様で現在もその恩恵に与り、感謝をいたしておるところでございます。

さて、龍生派五所川原支部は、二〇二〇年令和二年に支部創立四十五周年を迎えました。この節目を記念していけばな展の開催を計画していましたが、コロナの感染拡大に伴い止むなく一年延期とし、状況の好転を期待して今春の開催を目指しておりましたが、祈願もむなしく中止となりました。

次回開催は創立五十周年です。決意も新たに技術の研鑽に励む毎日です。また、支部では本部派遣指導員による研究会を年一回、龍生派巡回いけばな講習会を年一回それぞれ開催しております。技術向上はもとより会員相互の親睦も兼ねており楽しみながら研究会を行っております。その他に、各地区地域の文化祭への展示参加、学びと交流を兼ねての研修旅行、豪華景品満載の新年会等々……

ここ二年ほどは感染予防の為に自粛状態ですが、それでも学びの機会を無くさないようにと、感染対策を施して、リモートによる研究会開催など少しでも皆と繋がっていたいと思ひ会員皆で頑張っております。

いけばな界に限らず、各界でも色々と厳しい状況下にあることと

思われます。私達のような伝統文化に携わる者はより一層その現状を痛感しておられることでしょう。私達は、この素晴らしい日本の伝統文化を後世の若い世代に継承して頂かなければなりません。いけばなを志した者としてまた、指導者という立場からもこれは使命だと思っております。先人の先生方が脈々と受け継いでこられた伝統文化の重さを考えると何とも気の遠くなる思いでございます。

「この青二才が偉そうに!!」とお叱りは百も承知でございます。

もう何十年も前の事になります。子ども教室での子ども達の制作中の真剣な眼差しと、作品を仕上げた時の満面の笑みと……そして何より発想の自由闊達さに驚き思わず「うーん」と唸った事を今でも覚えております。当時の子ども達の中の誰かひとりでもいけばなをやったたら良いなと希望的観測で……

何やら取り留めのない話になってしまいました。とにかく、ひと言でいうなら「いけばなっていいな」という事ですね。今後も様々な形で皆様と接する機会があると思われれます。その際は、御指導、御鞭撻のほどを何卒よろしくお願い

申し上げます。
末筆ながら、今後共文化振興会議の益々の御発展と、加盟団体各位の御健勝と御活躍を心より祈念申し上げます。



CHILDREN'S MERRY FANTASIA

Material: Coiled willow branch (5), gerbera (3), wavy leaved plantain lily

Container: Modified ceramic ware covered with red earthen wave

童画的な楽しさ

花材 柳巻きづる5本、
ガーベラ3本、
すじぎぼうしゆ1株
花器 朱泥変形陶器

茶道裏千家 五所川原和敬会

〒037-10062
青森県五所川原市宇旭町7-13

五所川原市文化振興会議創立六十周年おめでとうございます。

「茶道裏千家五所川原和敬会」は昭和二十七年、元裏千家青森支部長、故江渡宗江・宗雅ご夫妻により結成され、会則作成により昭和三十八年十一月一日に正式発足致しました。

五所川原市民総合文化祭への参加は当初より欠かさず続けております。

十一月三日文化の日に行われる市民茶会に、数年前から中学生の茶道クラブの生徒さん達にも手伝わってもらい、「楽しかった」と喜びの声を聞き今後参加して貰いたいと思っております。

和敬会の年間行事としてのチャリティー茶会は、昭和四十三年から始め、毎年春には地域の方々や市民の皆様にもお気軽にお茶を楽しんで頂けるように、最近では市役所一階土間ホールで開催しています。益金は五所川原市社会福祉協議会へ寄付しております。

成人式への呈茶は若い人達にも興味を持って飲んで頂けるように協力させていただいております。

県下弓道大会は、毎年秋に五所川原を会場に開催されており、「五所

川原のお抹茶を楽しみにして下さると参加選手の方々に喜んで頂き、奉仕活動も五十年以上続けております。

和敬会の茶筌賽祭は市内の神明宮にて隔年に行っております。

平成二十四年には五所川原市教育委員会より茶道分野において永年にわたりその功績が認められ五所川原市文化功労賞を受賞することができました。

日本の伝統文化である茶道裏千家のことばの「一碗を手には多くの恩愛に感謝をささげ豊かな心で人々に交わり世の中が明るく暮らせるように一碗からピースフルネス」を目標にこれからも活動を続け精進して行きたいと思っております。

現在、和敬会の会員は六十六名です。毎年一月に開催している総会と新年茶会は、コロナの為自粛しております。

行事にあたっては常に初心を忘れず和敬の心を大切に今後も奉仕して参る所存でございます。

五所川原市文化振興会議のご発展をご祈念申し上げます。

茶道という伝統を通して文化的・社会的奉仕活動をしています。



チャリティー茶会



五所川原市民総合文化祭



茶筌方賽祭



県下弓道大会

遠州流茶華道 五所川原支部

〒037-0011
青森県五所川原市大字金山字盛山94-1

遠州流茶華道五所川原支部は、昭和四十九年弘前支部五所川原分室より初代支部長高橋宗伸先生の下に、五所川原支部として発足しました。

本会は、当初より五所川原市文化振興会議の市民総合文化祭等において、茶道及び華道の事業に取り組み、地域社会の諸行事に参加し、地域文化の高揚発展に努めて参りました。

その事業の一つとして、近年では、平成二十九年十一月三日から四日に、一般参加者約三百名の市民総合文化祭において、「遠州流孤篷庵華道展」を行いました。その際に、華道展の名称について、華道遠州流大徳寺孤篷庵小堀卓庵禪師へ澁谷宗松より御伺いを立てたところ、「遠州流孤篷庵」の名称をお使いくださいとのこと、感激したことを昨日のように覚えております。

また、文化振興会議の事業の二つ目としては、令和元年十一月三日、一般参加者約三百三十名の第二十九回青森県民文化祭、第五十八回五所川原市民総合文化祭において、遠州茶道宗家十三世不傳庵小堀宗実家元が掲げております「茶の湯を通して心を豊かに」というテーマの基に、「紅心宗慶宗匠筆の「日々之好日」のお軸を掛けて薄茶席を設けました。

そして、地域社会への「ご奉仕として、特筆すべきことは、昭和四十九年より令

和三年までの四十八年間、毎年七月頃に行われる神明宮宵宮祭において献茶をご奉仕し、コロナ禍以前まで、ご参拝された市民の皆様にも呈茶をさせて頂きました。

これまで述べた他にも、文化振興会議の一団体として、様々な地域貢献活動に取り組んで参りました。これからも茶道・華道の道に精進し、地域文化の高揚発展に努めて参りたいと存じます。

【沿革】

◎所在地 五所川原市大字金山字盛山

◎支部長 水島宗倭

◎支部会員数 四十五名

◎創立年 昭和四十九年

◎目的 本会は、会員相互の互助精神に基づき、会員の親睦と和をはかり、遠州流茶道の発展と日本文化の高揚発展に寄与することを目的とする。

◎現役員 十五名（令和三年度）

支部長 水島宗倭（教授者）

副支部長事務局 高橋宗節（理事）

監事 山本宗華、今 宗秀（理事）

会計 奥山彩香（理事）

相談役（教授者）

澁谷宗松、阿部宗晴、野呂宗源

青年部長

神山宗累（理事）

理事（教授者） 渋谷宗得、浅見宗向

加藤宗洸、小笠原宗賀、前田宗波

理事 中澤宗春、寺山宗実

遠州流茶華道五所川原支部は、会員等の皆と共に助け合い、親睦と和を図りながら、豊かな人形格を旨とし、遠州流茶道や華道の道を研鑽すると共に日本文化の歴史等を学び、遠州流茶道並びに地域文化の高揚発展に努め、個性を尊重しながら、楽しく望ましくふさわしい事業運営を行う。

◎支部のあゆみ

・昭和四十九年弘前支部五所川原分室より五所川原支部として発足

・昭和四十九年現在 神明宮宵宮祭において献茶奉仕

・昭和五十九年、五所川原支部創立十周年記念祝賀行事

・昭和六十三年～平成十四年、中三五所川原店でチャリティー茶会開催、五所川原市等へ寄付

・平成二年六月、五所川原支部創立十五周年記念祝賀行事

・平成七年五月、岩木乃支部五所川原支部合同創立二十周年記念茶会

・平成十年十一月～平成二十九年十一月、松島地域住民協議会開催の収穫感謝祭に協賛し、茶会開催

・平成十年九月、成趣庵紅心宗慶宗匠「茶の湯の花」研究会開催、中里町複合文化センター落成記念茶会

・平成十一年十月、五所川原支部創立二十五周年記念祝賀行事

・平成十四年六月十六日、遠州茶道宗家十三世不傳庵宗実家元継承記念茶会（濃茶、薄茶、こども茶会津軽野保育園、長橋保育園）

・平成二十一年十月四日、五所川原支部創立三十五周年記念祝賀行事

・平成二十三年～平成二十五年、津軽金山焼にて東日本大震災チャリティー茶

会開催、五所川原市へ寄付

・平成二十三年十月九日、五所川原支部稽古茶会開催、不傳庵小堀宗実家元（中里町複合文化センター）

・平成二十六年八月十七日、五所川原支部チャリティー茶会（長橋保育園協賛）

エルム文化センター

・平成二十七年五月、遠州流・裏千家合同チャリティー茶会（こども園長橋協賛）

エルム文化センター

・平成二十八年六月十九日、神明宮植樹しだれ桜寄贈、記念茶会開催

・平成二十八年九月～平成三十年、津軽金山焼チャリティー茶会開催

・令和元年六月二十三日、遠州流茶道五所川原支部創立四十五周年記念祝賀行事開催、遠州茶道宗家十三世不傳庵小堀宗実家元記念講演、いとか学園、こども園長橋が協賛し、子ども達による呈茶

・令和元年九月、青森県民文化祭オープニング、五所川原市ふるさと交流県民センターで呈茶担当

・令和元年十一月三日、第二十九回青森県民文化祭、第五十八回五所川原市民総合文化祭で茶会担

箏曲 松葉会

〒037-0204
青森県五所川原市金木町嘉瀬雲雀野109-8

当会は昭和三十五年八月に、双葉会として対馬類子先生（故）が活動を始めました。昭和五十三年より、松葉会に名前を改め現在にいたります。平成十四〜十五年位からは尺八の方々といっしょに演奏することができ、曲や音に深みが生まれたため、とても感謝しています。市文化祭には初回より一度も欠席することなく継続参加してきました。また団体や施設でボランティア演奏も行っています。ボランティアでは幼稚園や保育園の子供達へ、情操支援の一環として演奏を聞かせたり楽器への触れあいの機会を設けています。特に子供達は知っている曲を弾くと、いっしょに歌ってくれて、とても感激します。

これからも市文化祭に欠席することなく練習していききたいです。



設立・昭和35年8月
市文化祭への参加や、保育園・幼稚園でのボランティア演奏を行い、楽器を身近に感じてもらうことで豊かな心を育んでいる。

津軽アスナロ短歌会

〒036-1506
青森県弘前市昂4-6

代表・赤坂千賀子
会員・14人

「津軽アスナロ短歌会」は、昭和29年、大澤寿夫氏が立ち上げた会で、最初「点短歌会」としてスタートした。津軽地方に初めて出来た短歌会で、今でこそ十数名の会員数だが、当時はその何倍もあったらしい。昭和50年「津軽アスナロ短歌会」と改称し現在に及んでいる。

主な活動は、毎月一回の例会のほか、県下短歌大会を開催。今年で48回目を迎える。また合同歌集「岩木嶺」は、これまでに11集刊行。個人歌集も数十冊に及ぶ。

例会は毎月一回、第2土曜日の10時から12時半まで。歌会とミニ勉強会を行っている。会員は五所川原市のみならず、つがる市、深浦町、中泊町、鶴田町、弘前市、千葉県と広範囲に及び、月一度の例会にはワクワクしながら駆けつける。(千葉県の人はさすがに歌のみ提出ということになるが。)

ワクワクと書いたが、まさに歌会に参加できる喜びや、自分の歌を仲間批評してもらおう嬉しさは平凡な日常に色彩と活力をもたらしてくれる。

歌はありふれた日常の中から生まれることが多いが、この「ありふれた」ということが、「実は奇跡

的なバランスの上にある(俵万智)ことを忘れないでいたい。そして人と人との絆を大切に、日々の暮らしの中から言葉紡ぎ出していきたいと思っている。

最後に、会員の歌を一首ずつ掲載させていただいた。短歌に興味のある方、一首でも作ってみたい方は、まず見学において下さい。

まつさらのクツ履かされておさな
児のそろり踏み出す地球の一步
赤坂千賀子

街なかの老舗呉服店に貼られた
るガゼ・晒の入荷の知らせ
奥山 圭子

いつの間に誰か来客 床の間に
カサブランカの切花(はな)かざり有り
小山内國四郎

言の葉の揺れて揉みあう暗がり
に隠れ棲んでた鬼が飛び出す
工藤 光子

来る春に鍬打つ力吾にありや胸
にわきくる野菜畑の図
佐々木るい

● 新型の肺炎広がる地図見つ北
の大地に住む子を思う
佐藤 宏子

● 存分に生きたと思へば九十二歳
癌もコロナも怖ろしからず
中村 雅之

● 精米を終えたばかりの米に手を
入れれば温し秋雨の午後
野呂 富枝

● 片隅に政党交付金七十九億円
「GOTOトラブル？」朝刊漁る
原田 良明

● 言葉数少なき亡夫思いいぬ夢で
も声のききたき朝
松橋ミツエ

● 指先のかじかむ朝のタデの花水
路の中でカサカサ音す
三上 久子

● 明日の日を未来と決めしわれはい
ま目覚めてすぐに予定表を見る
宮越恵美子

● 負け囲碁に悔いある宵の帰り道
妻にケーキと思いい立ちたり
棟方 文雄

● ゆったりと鷺は羽ばたき梅雨晴
れの稲田の上の青空渡る
山中美智子



五所川原写真クラブ

〒037-0017
青森県五所川原市漆川字玉椿23

会長・伊藤 勝廣 〒037-0017 五所川原市漆川字玉椿23
事務局・井沼 章 〒037-0043 五所川原市蓮沼14市営11-15
☎(35) 3245
(34) 5146

クラブ結成は、1996年（H8）1月28日。結成のきっかけとなったのは、市文化振興会議に写真団体がなく市民文化祭にも写真の展示がなかったことと、西北五写真連絡協議会が主催する西北五合同写真展の第三回目を五所川原で開くことになり、その開催主体を組織する必要があったことなどが影響していた。

結成時の会員は16人だったが、翌年までには35人に増え、この年は、五所川原郵便局で初めての作品展を開き、中央公民館の市民文化祭にも参加した。

この頃は、デジタルカメラよりもフィルムカメラでの撮影が多く、例会や撮影会・勉強会などで互いに技術と表現力を磨きながら、郵便局での作品展、青森市アスパムでの作品展、西北五合同写真展への出品、中央公民館ロビー展、中央公民館市民文化祭への展示など精力的に活動した。

1998年（H10）11月には、第3回西北五合同写真展をクラブ主催で中央公民館大ホールで開催。西北五の写真愛好家115名の出品と特別展示「北井一夫展」（第1回木村伊兵衛賞受賞者）を併催し、展

示した全作品の出品目録を作成する。来場者は西北五にとどまらず、弘前・青森・七戸・秋田など遠くからも来てくださり、千人を超える大変な盛況だった。

また1998年10月には、東奥日報に会員による連載写真コラム「心に残る五所川原」（16回）が掲載された。また翌1999年も「故郷を撮り続けて」（14回）と題した連載が掲載され、予想以上に市民の話題になり、改めて写真をおして足元を見つめ直すきっかけともなった。

このような活動の中、毎年きちんとした五所川原写真クラブ展を開催すべきではないかという声が上ががり、第1回五所川原写真クラブ展を開催したのは、結成から4年目の2000年（H12）の6月である（エルムホール、30人出品）。

第6回まではエルムホールで開催し、第5回、6回は鶴田写真クラブとの合同写真展を開催。第7回目から現在までは、中央公民館大ホールを使つてのクラブ展となった。

2009年には第10回を記念して、大ホール、2・3階ギャラリィを使つて五所川原出身の写真家・越谷喜隆氏の個展も同時開催する。

2019年には、第20回を記念

して越谷氏の賛助出品を得てのクラブ展として開催し、同時に会員自慢の写真を集めた『第20回記念写真集』を出版した。

コロナ禍で、これまでのようにクラブ展を開催できるかどうか分からないが、どのような形でも毎年写真を発表していきたいと思っている。

現在、会員は11名と少なくなったが、他のクラブとくらべても、ネイチャーにとどまらず、個性的な写真が多く、バラエティーに富んだ作品は多くの支持を受けている。

カメラやスマホの写真性能が向上している今、写真人口は増えてきているが、SNSなどのネット上での展示や団体が多くなつており、写真環境も変わりつつある。

しかし、テレビやモニターでの写真と違い、大きくプリントし額装した作品は、写真本来の訴える力・見る人を引き込む力を持つている。その力を信じて、今後も、写真を通して一人一人の表現力を磨き、発表していきたい。



◀第21回五所川原写真クラブ展（2020年）

五所川原盆栽会・津軽野盆栽会

五所川原盆栽会
 住所・青森県五所川原市稲実字稲葉50-13
 代表・津島 幸雄 会員数・11名

津軽野盆栽会
 住所・青森県五所川原市稲実字稲葉50-13
 代表・津島 幸雄 設立・平成12年4月1日 会員数・25名

五所川原盆栽会は会員の高齢化に伴い一度は解散したものの、令和二年に再結成しました。残念ながら再結成以前の資料や記録に乏しく、会の沿革等は正確に把握できていないため、日頃活動を共にしている津軽野盆栽会と連名で寄稿させていただきます。主な活動は、

津軽野盆栽会との合同勉強会や毎年文化の日に五所川原市中央公民館で開催される「市民総合文化祭」への参加です。コロナウィルスの影響により、令和二、三年は開催できませんでしたが、会員一同これからも盆栽の修行に励み、五所川原市の文化活動の発展に努める所存です。

津軽野盆栽会は、平成十二年に五所川原市中央公民館の盆栽会の仲間と共に発足しました。以来、津軽野盆栽会という名称で月2回の勉強会を開催しています。季節に寄り添い、それぞれの盆栽を互いに批評し合いながら日々研鑽を積んで、気が付くとあと三年で会発足から四半世紀を迎えようとしています。毎年二回エルムで開催している春・秋の盆栽展も四十回を超えました。また、市外や県外の盆栽会の展示会にも互いに参加し交友を深めています。

また、会員の中には、栃木県宇都宮さつき&花フェアにおいて「文部科学大臣賞」の「名誉賞」を平成二十八年、令和三年と複数回受賞した方や、平成二十九年に「農林水産大臣賞」の「最高名誉賞」を受賞した方など、数々の名誉に輝いている方もおりますし、各地の公民館や地域の文化祭に招かれ、苔玉の講習会を定期的に開催している方など、会員の活動は多岐に渡っております。

2014年 (平成26年)	さつきフェスティバル (東京都)【理事長賞】 貴品銘花の部・新生
2015年 (平成27年)	さつきフェスティバル (東京都)【優秀賞】 貴品銘花の部・愛花 さつきフェスティバル (東京都)【優秀賞】 貴品銘花の部・新翠 宇都宮さつき&花フェア (栃木県)【優等賞】 銘花中小輪一部・雅姫 宇都宮さつき&花フェア (栃木県)【一等賞】 銘花大輪一部・優駿
2016年 (平成28年)	さつきフェスティバル (東京都)【最優秀賞】 銘花の部中輪・紫苑 さつきフェスティバル (東京都)【優秀賞】 貴品銘花の部・春の苑 宇都宮さつき&花フェア (栃木県)【文部科学大臣賞】【名誉賞】 銘花中輪一部・あかり
2017年 (平成29年)	第8回世界盆栽大会inさいたま(埼玉県)【出品】 皐月・寿光冠 さつきフェスティバル (東京都)【優秀賞】 銘花の部中輪・天使の翼 さつきフェスティバル (東京都)【優秀賞】 銘花の部小輪・かみのやま小町 さつきフェスティバル (東京都)【優秀賞】 貴品銘花の部・五月晴 宇都宮さつき&花フェア (栃木県)【特別優等賞】 銘花中小輪二部・寿子王 宇都宮さつき&花フェア (栃木県)【一等賞】 銘花中小輪一部・天使の翼 花と緑のサツキ展 (埼玉県)【特別優等賞】 銘花中小輪の部・花連光
2018年 (平成30年)	さつきフェスティバル (東京都)【最優秀賞】 銘花の部小輪・かみのやま小町 さつきフェスティバル (東京都)【努力賞】 貴品銘花の部・五月晴 宇都宮さつき&花フェア (栃木県)【農林水産大臣賞】【最高名誉賞】 銘花大輪一部・明翠 宇都宮さつき&花フェア (栃木県)【優等賞】 銘花大輪一部・新翠 花と緑のサツキ展 (埼玉県)【優等賞】 銘花大輪の部・紫光 花と緑のサツキ展 (埼玉県)【優等賞】 銘花中小輪の部・三姉妹
2019年 (令和元年)	さつきフェスティバル (東京都)【優秀賞】 最新銘花の部大輪・日向の華 さつきフェスティバル (東京都)【優秀賞】 貴品銘花の部・新生 宇都宮さつき&花フェア (栃木県)【優等賞】 銘花大輪一部・飛鳥の誉 宇都宮さつき&花フェア (栃木県)【一等賞】 銘花中輪一部・花連光
2021年 (令和3年)	さつきフェスティバル (東京都)【優秀賞】 銘花の部小輪・かみのやま小町 宇都宮さつき&花フェア (栃木県)【文部科学大臣賞】【名誉賞】 銘花中輪一部・紫苑



新日本舞踊 藤都流

〒037-0014
青森県五所川原市大字稲実字稲葉50-41

私、工藤はつがる市柏の出身です。時が経つのは早いもので既に八十歳を過ぎております。

農家の一人娘であった私は、十九歳で結婚し、子ども達が十歳を過ぎた頃、京都の貴船で働くことになりました。その後、千葉県で働くことになり、そこで日本舞踊の先生と出会いました。先生のもとで稽古に励み、様々な舞台を見て学ぶうちに私の人生はどんどん豊かになっていきました。踊りが上達してきた頃、先生に「帰郷して地元で舞踊の指導者になってはどうだ」と言われ、そこで私は五所川原で舞踊の指導者することになりました。団体名は「新日本舞踊藤都誉美穂」とし、平成十二年六月から活動を開始しました。発足当初は四人しかいなかった会員が、平成十三年には三十人にまで増えまるで夢のようでした。その頃から会員の皆さんの稽古の成果を披露するために発表会を開催したいと考えるようになり、記念すべき一回目として「藤都流舞踊の祭典」を開催しました。それ以来定期的に発表会を行ってきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で昨年からは開催を見合わせています。一刻も早く感

染症が終息し、発表会を開催できることを願うばかりです。

最近では会員の高齢化に伴い、多いときでは五十人程いた会員も今では半分以下になってしまいました。しかし会員一同これからもより一層稽古に励んでいこうと思っておりますので、今後とも御指導く

でございますようよろしく
お願いいたします。

代表 工藤 京
(藤都誉美穂)

宗家 藤都誉美穂
家元 藤都初美穂

公民館での稽古の成果を市文化祭などの発表会で披露しています。



藤都流第16回 舞踊の祭典 2016.4.24

五所川原甚句保存会

〒037-0011
青森県五所川原市大字金山字竹崎1-6
（榎藤産業内）

会長・島村 健二 設立・昭和40年 会員・12名
会の目的・芸術文化の向上 社会福祉に貢献、郷土古来の芸術の保存研究、
会員相互の親睦。

◆五所川原甚句の由来等

約三五〇有余年前（江戸時代前期）に、五所川原地方では冷害による凶作が続き、苦しんだ農民達は（西海岸の）深浦地域にあった鉾山へ出稼ぎに行き、そこで得た僅かなお金で細々と生活する一方で、農具等を修理しながら田畑を耕し続けていた。数年後にはようやく天候が回復し大豊作を見ることができ、喜んだ農民達は早速手作りの笠のまわりに稲穂を吊るし、三日三晩踊り続けたそう、それが起源だと言われている。

後に、秋の豊作祈願と祖先の霊に感謝するため、お盆の踊りとして定着し、今日の「五所川原甚句」として引き継がれている。

◆踊りの特色

- * 花笠のまわりに二〇〜三〇本の房（切り紙）を下げ、顔がはっきり見えないうように踊る。
- * 両手は肩より下げないようにする。
- * 頭は手の動きに合わせて左右に振り、笠に下げている房（切り紙）を揺らすように踊る。
- * 足は地を這うように運ぶ。
- * 両手の中指に白い花紙をはさんで踊る。

◆沿革

昭和四十年（一九六五年）に保存会を設立した。

・歴代会長

鶴谷初太郎

成田 栄一（昭和四〇年〜六〇年）

千葉 勝廣（昭和六〇年〜平成元年）

山本 永悦（平成元年〜一七年）

島村 健二（平成一七年〜二七年）

（平成二八年〜現在）

平成一三年一二月に五所川原市文化財に指定された。

◆受賞

・青森県知事より感謝状

（平成五年八月）

・五所川原市長より五所川原市伝統文化功労賞（平成六年二月）

・青森県知事より感謝状

（平成七年八月）

・文化庁長官より感謝状

（平成一二年一〇月）

・五所川原市教育長より感謝状

（平成一六年一月）

・五所川原市長、五所川原社会福祉協議会会長より感謝状
（平成二七年一月）

◆盆踊り大会の変遷

開催場所については、旧大丸前十字通り・寺町の旧小学校通りなど、明治の頃から踊られていたそうである。戦後は、旧日本通運前通り・旧ロータリー・旧市役所お祭り広場。

平成になり、エルムの夏祭りに参加（エルム特設ステージ・克雪ドーム）その後、五所川原市中央公民館大ホール（平成二〇年）エルム文化ホール（平成二一〜二三年）立佞武多広場（平成二四〜二五年）と遷っていった。

また、保存会設立時から平成二三年までは五所川原甚句保存会が主催団体として運営していたが、会員数の減少や社会情勢の変化等もあり、平成二四年以降は五所川原市盆踊り大会実行委員会が組織され、その構成員として運営に携わった。それを最後に、残念ながら現在は「盆踊り大会」に携われないでいる。

◆活動の状況と展望

本会の重要な活動の柱となっているのが福祉施設等への慰問活動

であり、プログラムの最後には必ず「五所川原甚句」を披露し、始めてから四〇年近くになる。毎月一回の定例会を基本とし、行事等により特別練習を行い、技能の向上に努めている。また、南小学校運動会での五所川原甚句踊りの取組で、踊りの指導依頼に対応したり、一緒に踊りの輪の中に入る場面もあった。

「入会者が少ない」ことや「会員の高齢化」が大きな課題であるが、講習会を企画したり、各所での盆踊りの場面に参加し、甚句踊りをアピールすることなどにより、サポート会員などを募り、入会へつなげたいと考えている。



花笠：房の間には稲穂も付ける。

五所川原女声コーラス

〒037-0033
青森県五所川原市鎌谷町13

昭和五十二年五月、南小学校PTA、みなみおかあさんコーラスが母体となり、五所川原ママコーラスとして誕生。

昭和五十二年六月

青森県合唱祭出場 五所川原市

昭和六十年六月

おかあさんコーラス東北大会

秋田市

昭和六十年八月

おかあさんコーラス全国大会

ひまわり賞受賞

大阪フェスティバルホール

昭和六十二年四月

五所川原女声コーラスと改名

昭和六十二年八月

おかあさんコーラス全国大会

グランプリ受賞 福岡サンパレス

昭和六十三年二月

市文化奨励賞受賞

平成二年九月

世界のおかあさんコーラス

国際花と緑の博覧会 大阪府

平成三年六月

日米親善演奏旅行

アメリカ オレゴン州・シアトル

平成十六年七月

兼平民子先生の申し出により

コーラスは休会

平成十七年一月

石田睦子先生御指導のもと再出発

太宰治生誕祭

交通安全推進フェスティバル

北のひびきコンサート賛助出演

市民総合文化祭への参画

各種研修会のオープニング出演など、石田先生のご指導のもとハモるたのしみを心のより所として集い活動が続けております。

石田先生へ感謝の拍手を送ります。

平成十七年一月から現在

指揮 石田 睦子

ピアノ 石田 睦子

代表 宮崎 妙子

副代表 田辺 裕子

事務局 小田桐恵子

メンバー紹介

石田睦子、山本美和、園村ゆかり、

工藤陽子、一戸トシ、池田純子、

田辺裕子、野呂裕子、市前総子、

齊藤恵美子、長尾公子、小野洋子、

藤田れつ子、小田桐恵子、

岩谷信子、蝦名富美子、山谷テル、

山内信子、成田和子、長尾敦子、

島川文子、宮崎妙子

設立・昭和52年5月
指揮・一戸 民子
ピアノ・対馬 裕子

代表・宮崎 妙子
副代表・三橋 トシ



昭和 62 年 8 月 おかあさんコーラス全国大会 福岡市／福岡サンパレス



平成 23 年 7 月 さわやかコンサート 五所川原市／オルテンシア

本会は、昭和二十六年方円流として発足され、昭和三十九年に、青森支部として設立されました。

昭和六十二年、青森津軽支部と青森十和田支部に分割されました。

平成四年、五所川原と青森津軽支部に分割されました。

平成七年、青森十和田支部が青森南部支部と名称変更されました。

平成十六年、五所川原と青森津軽支部が合併し、青森津軽支部として、活躍して来りました。

平成二十一年、青森津軽支部と青森南部支部が合併し、現在は青森支部として活躍しています。

活動の内容

・東北部会茶会

東北六県で順番に年一回茶会を開いております。お家元様初め全国から多数参加していただき盛大に行われております。

第一回目

日時 平成十六年九月

場所 ホテルグランメール

山海荘(鱒ヶ沢町)

席 玉露席 葛西由園

煎茶席 成田恵園

紅茶席 渋谷藤園

点心

第二回目

日時 平成二十二年九月

場所 ホテル青森

席 玉露席 葛西由園

煎茶席 渋谷藤園

香煎席 高山妙園

点心



煎茶席

第三回目

日時 平成二十九年九月

場所 ホテルグランメール

山海荘(鱒ヶ沢町)

席 玉露席 田端青園

煎茶席 高山妙園

香煎席 渋谷藤園

点心



春の茶会参加者一同

・青森支部茶会

支部茶会は、一年に二、三回鱒ヶ沢、五所川原、金木、十和田で行っております。

春の茶会(初煎会)

日時 平成二十四年二月

場所 ホテルサンルート

担当 渋谷藤園

夏の茶会

日時 平成二十四年八月

場所 セセラギの庭松苑

席 玉露席 渋谷藤園

煎茶席 渋谷るり子

神 範子

担当 渋谷社中で受け持ちました。



夏の茶会(玉露席)

・五所川原市民茶会(文化祭)

平成二十一年より、毎年参加しておりますが、スペースの関係で一回のみ記載致します。

日時 平成二十三年十一月

席 番茶席(大福茶)

※めでたい時に飲みます。

担当 渋谷藤園



大福茶とは、結び昆布と小梅を入れた番茶です。

全日本俳画穂有会
 (青森県五所川原教室)

〒037-0083
 青森県五所川原市新宮町16



俳画、はがき絵サークルとして、公民館で仲間と楽しく活動しています。

本会は、平成十七年に中央(東京)に設立され、平成二十五年一月から五所川原教室のサークルとして活動し始めました。

今年で九年目と歴史の浅い教室です。

俳画と聞かれて馴染みの薄い方もいらつしやると思いますが、字の如く、俳句と画が相携え表現できる日本画の一つとされております。

江戸時代、芭蕉・蕪村らにより完成させられたと言われております。

画題は主に季感に配慮し、思いきった運筆、大胆な省略で描かれ、余白・空間を生かし、句を書き添え絵になります。

この画と句が相俟って、情景・色彩・余韻を醸し出し、見る人に感動を与えることに、日本画・水彩画と違う俳味俳趣の価値が求められると思われれます。

俳句は、歴史に名を刻んだ方々の句を引用させてもらいつつも、自作の句は自身に貴重なひびきをもたらし、一味違った愛しさも覚えさせてくれます。

月に一度の二時間のひと時、日々の生活に潤いを与えてくれる仲間に、一昨年「はがき絵」も加わりました。

平均年齢七十五才越えのサークルは、笑いあり、時にはため息ありと、和気あいあい第二第三の青春を謳歌しております。

五所川原市教育委員会にて、平成二十三年より「津軽かたりべの会」会長菊池菊代先生を講師に迎えて、五所川原、金木、市浦の3会場にて当初四十二名の参加者で勉強して参りました。その事業が二年で打ち切られることとなり、受講者の中から、口承による無形民俗文化財といふべき「昔ばなし」を後世に引き継いでいく活動をしていこうと、有志二十三名で平成二十五年に発足しました。

平成二十五年・二十六年度と文化科学省より「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」の委託を受けて、会員の「語り部」としての資質向上を目指し、学習会等を実施してきました。

岩手の遠野、秋田の鹿角、山形の新庄など現地研修、交流を重ねて参りました。

幼稚園、保育園、小学校、各施設の訪問、文化祭等での語り。

毎年の行事として五月から九月まで毎週土曜日十一時より十一時半まで、旧平山家において「むがしっこ語り」を開催しております。

「むがしこしあつたど…いまねど…」って、なればまいねはんであちでも語って、こぢでもはなしっ



2016.5 公民館こどもフェスティバル

こして歩いてるんだど。
とっちばれ



2016.4.2 熊澤南水さん ひとり語り

「沿革」

昭和五十年九月十五日

弘前支部市浦分室として発足

分室長 故鈴木宗肇

平成八年四月

市浦分室より五所川原東支部
に昇格

支部長 故鈴木宗肇

現支部長 越谷宗輝

「活動状況」

- 文化振興会議主催の「市民総合文化祭」に参加

- 中央公民館主催の「子どもフェスティバル」において 薄茶席・呈茶・抹茶体験コーナーを設けている。

- 市浦コミュニティセンターで開催される「市浦ふるさとまつり」において呈茶

- 特定非営利活動法人MEGO主催の「MEGO祭」において呈茶
- 支部独自の催しとして、毎年六

月市内森羽邸にて「さつき茶会」を開催（十五回継続）
近隣の交流のある方をお招きし、親睦を深めている。

「今後の抱負」

教授者を増やし、会員の増強を図りたいと思っております。

新型コロナウイルスが変異株の流行などによってより感染が拡大し、収束が見通せない昨今です。

世界中が混沌とした中「一碗の茶」から豊かな心を醸し出し、心技一体を学び、和をもって楽しく環を広げたいと思っております。
新型コロナウイルス感染症の一日も早い収束を祈念し、みなさまと会場でお会いできることを楽しみに励みたいと思います。



青年部研修会



さつき茶会（薄茶席）



市浦ふるさとまつり



さつき茶会（濃茶席）

ハーモニー夢

〒037-0033
青森県五所川原市鎌谷町506-12

当会は、平成十五年四月設立。今年であしかけ二十年になります。が、まだまだ成長途上の若い会です。歴々と語れずとも希望のある広がりができるようにと今、正に一つひとつ積み重ねる小さな歩みが続いている最中です。また文化振興会議へ入会五年目です。

現在の指揮者は四代目の半澤里加子先生（蝦名昭逸氏、木村玲子氏、石田睦子氏の三代）ピアノ伴奏者は当初より専属になっています蒔苗雅子先生。幸せな会です。

人は人を必要とするとはよくいったもの、吸い寄せられるように会員が増え、熟、熟年の面々で月に三回程度、レッスンに励んでいます。合唱曲が中心であり、曲に畏敬の念を持ちつつも楽しむ心を大切に運営しています。会員一人ひとり個々が出来ることをする



しなやかさ、習慣化された協力の精神が根付いてきているようです。

一年未満での初代指揮者の交代等の逆風を乗り越えたところに、加齢、病、転居、家族間事、交通手段が被さりませんが、その都度改善策を考え見つけ今日に至っています。勿論、課題は目前にまた、将来に渡りいろいろあるのですが…。笑顔に優しさが伝わってくるのが温かくほほえましい会です。手を取り共に一つの願いを追いかけることの凄さ、歌に寄せて『どう生きるのか』を学習しているような導き、そこにあるようです。

《当時の主活動計画例》

- 一、総 会 (四月)
- 一、ボランティア活動 (六月)
- 一、一泊研修会 (七月)
- 一、利用者発表会 (十月)
- 一、利用者交流会 (一月)
- 一、サークル一日体験 (二月)

当会スタートの平成十五年を顧みますと、『婦人の家』三階ホールを拠点に月例会四回程度、合唱曲を中心に歌っていました。立上げ初回目、力量の有無はさておき皆張り切っていました。準備し、立

代表者・工藤 邦子 指揮者・半澤里加子
会員数・18名 設立・平成15年4月
目的・古今の合唱曲を歌うことを通して芸術の一端にふれ、演奏を楽しむ。

上げに尽力された方々は、もう会を離れています。入会と同時に歯車が回りました。利用者会に参加し、日頃習練した成果の機会を与えてもらえる発表会。更に旅行・研修、会員交流会。年一回の館内清掃と行事が多様。歌うばかりではない社交的お付き合いいも。発表会の賑わいはとても楽しみにし、舞台発表は勿論作品展、食堂、喫茶、お茶席、手作り品、花の販売、バザーなど各サークルが幾つかまとまり分担運営する共同の活躍の場に。キラッと光る懐かしい思い出です。

この間の活動として、太宰治生誕祭、オルテンシアフェスティバル、さわやかコンサート、蒔苗音楽教室発表会、交通安全フェスティバル、県民文化祭などへ出演しました。文化振興会議への仲間入りができた平成二十九年からは毎年市総合文化祭での発表三回。その後二年は、コロナウイルスの影響で文化祭が中止になったため、お預けになっています。

「ハーモニー夢」は歌の好きな仲間が集まって、楽しく歌っています。英語、イタリア語、ドイツ語等にもチャレンジし、暗譜して歌っ

ています。《指導者より》
自身をふるい立たせ、意欲ある限り人生に歌を選択し表現して、生きる拠り所にしたいです。



五所川原健康レクダンス 飛翔

〒037-10069
青森県五所川原市若葉1丁目4-12

平成29年4月、「五所川原働く婦人の家」のお世話を頂き、希望と不安の中で発足致しました私達「五所川原健康レクダンス飛翔」も皆様方のお力添えのおかげ様で曲がりなりに発表ができるようになりました。

まだまだ未熟ですが五所川原市の文化祭は勿論、7月には青森県スポーツレクリエーションダンス大会、8月5・6・7日には、五所川原立佞武多への参加、8月後半につがる市の馬市まつりパレードへ賛助出演、9月初旬には青森県レクリエーションダンス大会（青森市アウガ5階）、9月中旬には全国レクリエーションダンス大会（函館と仙台）に参加し、青森県の代表として発表してきました。10月中旬には五所川原産業まつりに出場し、7曲の発表、10月末には青森県レクリエーションダンス協会の発表（青森市民体育館）、11月にはいよいよ五所川原市の文化祭（中央公民館）で9曲の発表です。まだまだ経験不足ですが、これからも皆で協力し、「明るく、楽しく、元気よく」を目標に活動を続け、仲間と身体を動かしながら楽しい会にして行きたいと思っています。会員は、現在27名

で年齢は、50代〜80代、皆で仲よく、楽しく活動しています。夜の部と昼の部があり、夜は月曜日の19時〜20時30分までの月3回、昼は毎週火曜日の13時〜15時までの月4回。もちろん、休憩有りです。皆の交流を深める場でもあり、楽しみのある場でもあります。

レクリエーションダンスは、そんなに難しくはないと思います。それでいて汗をかき、ある程度の運動にもなるのです。どうぞ一度見学においで下さい。

結成して「5年」ですが、まだまだ「ひよこ」です。最初の1年は基礎的な踊りの練習のみで発表はなし、2・3年目から文化振興会議に加入し、文化祭では9曲の発表をさせて頂き、感謝一杯でした。4・5年目は、コロナで発表なしとなりとても残念でしたが、練習はできたのである程度の踊りは踊ることができ、お客さんはいまいませんでしたが働く婦人の家の3階で衣装をつけて発表ができたので満足でした。会員一同、皆様方にお会いできる日を楽しみにしています。

もともと「よさこいソーラン飛翔」として活躍したが年齢が高くなると共にハードになり、5年前から「五所川原健康レクダンス飛翔」とチーム名を変え、レクダンスは勿論のこと「ねぶた」にも「飛翔」として出場しています。



青森県スポーツレクリエーションダンス大会
(青森市沖館市民センターにて、平成29年7月)



青森県レクリエーションダンス大会
(青森市アウガ5階にて、平成30年9月)



青森県レクリエーションダンス大会
(青森市アウガ5階にて、令和2年9月)



全国レクリエーションダンス大会
(宮城県仙台にて、令和元年9月)

歌謡楽唱会

〒037-0022
青森県五所川原市大字梅田字平野37番地

設立・令和元年5月
活動内容・様々な発表会や大会に参加し、地域とのふれあいを深めることで社会に貢献することを目指す。

元来歌の好きな仲間であり、これまで長年社会で働き終え、別の世界へ進もうと声を掛け合い結成されました。

歌は離れてでも、どこでも、いつでも・一人でも・大勢でも楽しめる一番の宝物です。もともと声良き人は歌い手になり、聴く人に感銘を与えて来ました。しかし今では老若を問わず、幅広く歌を楽しむ様になりました。これらも一つには音楽を媒介する機器の進展によるものと思います。特に身近なカラオケ機器には目を見張る物があります。会の仲間は、懐メロ(歌謡曲)、演歌、童謡等幅広いジャンルを歌います。

昨今、歌が健康増進に役立つとされているため、介護施設等では、日々の活動の中に歌を取り入れたりもしているそうです。

日々の声出し練習を続ける意欲を持ち、仲間とのふれ合いを大切にします。各種他団体の発表会・大会等への参加もしています。

今後も地域において、ふれあいを深め、社会に貢献しながら、続ける楽しさ、健康増進の為に歌う文化活動をする所存です。



当会の写真教室は発足してから二十数年あまりになります。

エルムの街「エルム文化センター」が主催し、その中で月二回、講師先生による座学勉強と年に二、三回は郊外に出ての実技指導があり、初心者には先輩達が何をどのように撮りたいのか、それにより絞り優先か、あるいはシャッター優先かなど、親切に教えてくれます。

撮影会は特に楽しく、県内の四季はもちろん宿泊付きで県外まで足を伸ばし、北海道は函館の夜景、富良野の絶景、大沼公園の紅葉など、東北六県の撮影スポットや名勝旧跡などに行ったことも数知れず。特に宿泊の際はアルコールなどが入ると全員が共通の趣味を持つているため遅くまで写真の失敗談などで話が咲きます。

また、撮影後は全員でプロジェクトターに写真を映し再確認し、講師先生から構図や露出、シャッタースピード等、思い出話や失敗談など楽しい反省会にもなります。

結果はエルム文化ホールの展示会で発表します。日頃の成果を十分に発揮する最大の見せ場であるため、とても緊張します。

展示会終了後の、講師先生によ

る一人ひとりの写真の講評は最大の楽しみでもあり一番緊張する時でもあります。又、お客さまからも大変好評で、受講生である私達も次回はもっと良い写真を撮らなければと決意を新たにする時でもあります。

お陰様で青森県民文化祭でも、今まで何人も入賞することが出来ました。しかしながら長年続いてきたエルム写真教室もコロナ禍の影響で、令和二年三月をもって閉鎖することになり残念でたまりませんでした。

しかし、今までのように何とか続けたい気持ちで写真教室の仲間全員を奮起させ、新たに写真クラブを結成することとなり、会員全員の協力により規約の作成から会費及び講習会の場所や回数、役員の選出などで準備も大変でしたが、幸い講師先生も引き続き指導してくれることになり安堵し、どうにか全員の協力により七月から新写真クラブを発足出来るようになりました。名称も従来通り「五所川原悠遊クラブ」に決定しました。

県写真連盟や五所川原市文化振興会議等にも加入させていただき感謝の一言です。

楽しみながら仲間の親睦と撮影技術の向上を目指す。

いろいろと紆余曲折あり、コロナ禍で郊外での撮影会や展示会も開催出来ませんでした。講師先生の指導により楽しい勉強会が毎月出来ることは何よりで、この雰囲気がいままで続くよう新規加入者を随時受付し、見学も大歓迎しております。現在会員は十六名ですが、これからも会員を増やし楽しい写真クラブがいつまでも続いたら良いなあと思っています。

今後は状況をみて積極的に郊外活動や展示会を開催し、会の更なるレベルアップにと会員全員奮起しています。



ねん土を楽しむ会

〒037-0087
青森県五所川原市高瀬字一本柳102

います。

ロマンドル師範
代表 岡田 美恵子

白い無形の粘土から有形の作品作りを通して多くの方々の感性とやさしさを素直に表現し、楽しんでいける会です。

本会は、エルム文化センター開設
当時から、ロマンドル教室とし
て、紙粘土・陶磁器粘土を材料とし
人形・室内装飾品として花かご・壁
掛け・ペンダント・ブローチ等作
品作りをし、楽しんでまいりました。
昨今のコロナ禍の影響で、令和
二年七月から活動の場を中央公民
館に移し、「ねん土を楽しむ会」と
して、毎月三回月曜日、教室として
作品作りをしております。作業工程
については、紙粘土作品は出来上
がった作品に繰り返し色付けをし、
乾燥させてからニスをかけて出来
上がりです。陶磁器作品は紙粘土
と同じ工程ですが、出来た作品を
電気釜に入れ、八時間くらいかけ
て焼き上げます。その時の色調が
思い通りに完成しているか、ひび
が入っていないかなど心配ごとは
たくさんありますが、完成した時
の喜びは格別なものです。細かい
手先の作業に加え独自の創意工夫
に素直な心とやさしさを加え作り
上げていくプロセスが、まさに「ね
ん土を楽しむ会」の目的とするこ
ろであります。

今後も本会の活動内容を広く周
知し、ねん土を楽しむ方が増えま
す事を願い、教室活動を続けてま



加盟団体一覧・規約



五所川原市文化振興会議 加盟団体一覧

No.	団 体 名	代 表 者	会 員 数
1	津軽植物の会	木 村 啓	50
2	五所川原俳句会	松 宮 梗 子	15
3	五所川原短歌会	番 場 輝 子	11
4	五所川原宝生会	澁 谷 信 一	10
5	五所川原合唱団	三 橋 一 志	25
6	川柳岩木吟社	佐 藤 文 治	14
7	五所川原書道会	高 松 隆 喜	50
8	菊花晚香会	土 井 正 行	10
9	画友社	葛 西 浩 三	12
10	光彩会	増 田 初 子	14
11	五所川原四つ羽会	神 貴美子	8
12	華道家元池坊	田 村 照 代	15
13	遠州流茶華道津軽西海支部	藤 田 宗 祥	37
14	一般財団法人小原流五所川原支部	長谷川 敬 子	70
15	いけばな龍生派五所川原支部	木 村 紫 香	50
16	茶道裏千家五所川原和敬会	江 渡 宗 成	66
17	遠州流茶華道五所川原支部	水 島 宗 倭	45
18	箏曲 松葉会	澤 田 篤 子	12
19	津軽アスナロ短歌会	赤 坂 千賀子	14
20	五所川原写真クラブ	伊 藤 勝 廣	11
21	津軽野盆栽会	津 島 幸 雄	25
22	新日本舞踊藤都流	工 藤 京	16
23	五所川原甚句保存会	島 村 健 二	12
24	五所川原女声コーラス	宮 崎 妙 子	22
25	公益財団法人 煎茶道方円流	渋 谷 正 子	60
26	全日本俳画穂有会（青森県五所川原教室）	原 克 子	9
27	むがしっこ語る会 “ゆきん子”	春 藤 篤 子	14
28	遠州流茶道五所川原東支部	越 谷 宗 輝	20
29	ハーモニー夢	工 藤 邦 子	18
30	五所川原健康レクダンス飛翔	蝦 名 富美子	27
31	歌謡 楽唱会	佐 藤 武 彦	12
32	五所川原盆栽会	津 島 幸 雄	11
33	五所川原悠遊クラブ	原 隆 司	16
34	ねん土を楽しむ会	岡 田 美恵子	5

五所川原市文化振興会議規約

第1章 総 則

(名称)

第1条 本会は、五所川原市文化振興会議と称する。

(趣旨)

第2条 本会は、五所川原市内に活動拠点をおく文化団体等をもって組織し、芸術文化の交流と振興を図ることを趣旨とする。

(事務所)

第3条 本会の事務所は、五所川原市中央公民館に置く。

(事業年度)

第4条 本会の事業年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

第2章 役員及び職員

(役員)

第5条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会 長 1名
- (2) 副会長 3名
- (3) 理 事 10名
- (4) 監 事 2名

(顧問)

第6条 本会に会長の委嘱により顧問を置くことができる。

(役員の仕事)

第7条 会長は、会を代表し、会務を総括し、会議の場合は議長となる。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは会長の職務を代理する。

3 理事は、会務の運営に参画する。

(役員を選任)

第8条 役員は総会において選任する。

(役員の仕事)

第9条 役員の仕事は2年とする。ただし再任は妨げない。

2 役員は、任期満了後でも後任者が就任するまでその職務を行う。

3 欠員を生じ選任された役員の仕事は、前任者の残任期間とする。

(職員)

第10条 本会に、事務局を置き事務局長は中央公民館長があたる

2 書記は会長の命を受け庶務会計を掌る。

(名誉会長)

第11条 本会は、総会の承認を得て、名誉会長をおくことができる。

第3章 事 業

(事業)

第12条 本会は、その目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 芸術文化普及及び文化思想の発展向上を図るため、青森県文化振興会議と連携
- (2) 発表会・講演会の開催
- (3) 市民総合文化祭の開催
- (4) 五所川原市文化功労賞に関する実施要綱に係る推薦者の選考
- (5) 前各号に掲げるもののほか、本会の目的達成のために必要な事業

第4章 会 議

(会議)

第13条 本会の会議は、総会、役員会とする。

- 2 会議の議事は、出席者の過半数をもって決する。ただし、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

(会議の招集)

第14条 総会は、毎年5月末日までに会長がこれを召集する。ただし、

会長が必要と認めた場合には臨時総会を開催することができる。

- 2 役員会は必要に応じ会長がこれを招集する。

第5章 会 計

(経費の負担)

第15条 本会の経費は、会費及び市の助成金等の収入によって支弁する。

- 2 会費は、年額5,000円とする。

- 3 前項の会費は、毎年度6月末日までに納入しなければならない。

(予算及び決算)

第16条 毎事業年度の予算及び決算は、会長が役員会に諮って総会に報告し、その承認を得なければならない。

- 2 前項の決算を総会に報告するときは、監事の意見を付するものとする。

附 則

この規約は、昭和35年9月1日より施行する。

1. 本規約は、昭和46年11月9日より改正施行する。
2. 本規約は、昭和51年9月21日より改正施行する。
3. 本規約は、昭和56年10月9日より改正施行する。
4. 本規約は、昭和58年10月5日より改正施行する。
5. 本規約は、平成3年9月26日より改正施行する。
6. 本規約は、平成5年9月28日より改正施行する。
7. 本規約は、平成6年9月30日より改正施行する。
8. 本規約は、平成19年5月15日より改正施行する。
9. 本規約は、平成25年5月22日より改正施行する。

編集後記

五所川原市文化振興会議創立六十周年にあたり、ここに記念誌を発行できたことを大変喜ばしく思います。

当会議がこのような記念誌を発行するのは初の試みでしたが、残念なことに会の沿革等についての資料はほとんど残っておらず、創立以来の記録は正確に把握できていないため、本誌では加盟団体の活動内容に焦点を当てました。編集作業を進めていく中で、各団体の軌跡や活動に懸ける想いに触れ、今日の文化振興会議があるのは、これまで会を支えてきた偉大な先人達や現会員の皆様のおかげであるということを実感しました。今後はこの六十周年を期に後世に記録を残して参る所存です。

おわりに、会員の皆様並びにご寄稿・ご助言いただきました皆様にご心より感謝を申し上げますとともに、本記念誌が当市の芸術文化の発展に繋がることを祈念します。

五所川原市文化振興会議創立60周年記念誌

発行日	令和4年3月31日
発行・編集	五所川原市文化振興会議 〒037-0016 青森県五所川原市字一ツ谷504番地1 TEL 0173-35-6056
印刷	有限会社 アート印刷 〒037-0011 青森県五所川原市大字金山字亀ヶ岡46-7 TEL 0173-34-4487